

栄ある新築落成式

厳かにそして盛大に壮図の完成を祝う

番外プログラムで功労者を讃う

大学セミナー・ハウスは名実共に完成して昭和四〇年一月一日その新築落成式を挙行了。壮図を抱いてこの日までに七年。遂に ambitious goal に到着した。少数グループの懇談会―財団法人設立発起人会―建設後援会創立総会―募金活動―地鎮祭―開館式として落成式を迎えたわけである。

まず岡本仁教授指揮による国立音楽大学合唱団の美しいコーラスをもって開会。

前東京大学総長茅誠司氏が今日ハセミナー・ハウスの館長として、晴れやかに喜びも一人に開会の挨拶を述べられ、次いで建設後援会側を代表して三井銀行会長佐藤喜一郎氏が、わが国の大学教育の振興を願って、この募金運動を推進された心境を披瀝され今日の完成を心から喜ばれた。早稲田大学総長大浜信泉氏は本法人理事長として、計画の初めから法人設立、募金活動、敷地の選定、設計

工事に至るまでの詳細な経過報告を行ない計画の実現を支援された。なお設計監理を担当された早稲田大学建築学科の吉阪隆正教授と工事請負者清水建設株式会社社長清水康雄氏に対し感謝状を贈呈し、前半を終った。茅・佐藤・大浜の三先生は文字通り当面の責任者としてセミナー・ハウス建設の重任を果たされたことでもあり、語る言葉の一言一句にも実感が溢れていた。

式は別記のプログラムにより飯田専務理事の司会のもとに進行。

三上茂子嬢の美しいソプラノが式場の緊張をほごしたところで、

来賓代表の祝辞に移った。知性、人格そして識見において真に当代日本を代表するにふさわしい御三方の祝辞をいただくことができたことは大学セミナー・ハウスの幸運といわなければならない。御三方の祝辞は単なる落成を祝うことばというよりは大学教育に対するメッセージであり、セミナー・ハウスの未来像を期待しての忠言であった。御三方の祝辞は順次本紙上に掲載する予定であるが、本号には大河内東大総長の祝辞をもって第一頁を飾ることにした。

式典を盛り上げた

八王子市の庭園寄贈

八王子市は、大学セミナー・ハウスがこの土地に建設されることを歓迎し、市及び市民が一体となり、八王子市大学セミナー・ハウス建設後援会を組織し、長老の元市長小林吉之助翁が会長に、植竹市長が名誉会長となり、商工会議所など各団体及び各大学卒業生の同窓会が主力となって募金運動を推進され、構内美化のための造園費として一五〇万円を落成式の席上において寄贈された。既に中央庭園と第二群内庭はこの日を期して造園もほぼ完成していたので、参観者に披露することができた。地元民の心からの歓迎が式典において表明され、祝賀気分を更に加え得たことは喜ばしいことである。大浜理事長に小林会長から目

新築落成式プログラム

司式 専務理事 飯田宗一郎
合唱 「わが祖国」
(フィンランド國民歌)

挨拶 館長 茅 誠司
建設後援会代表

経過報告 理事長 大浜 信泉
感謝状贈呈

独唱 「あしたのうた」
三上 茂子

祝辞 東京大学総長 大河内一男
経済団体連合会長 石坂 泰三
朝日新聞社顧問 笠 信太郎

合唱 「学生歌」
(ドイツ学生歌)

庭園寄贈 八王子市長 植竹 円次
同市後援会長 小林吉之助

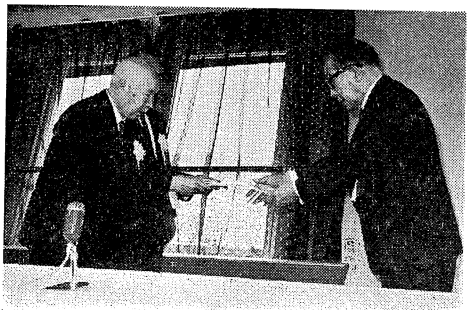
挨拶 (電文による) 理事 上代 たの

施設参観 お祝いパーティー

合唱 国立音楽大学合唱団
指揮 岡本 仁

記念樹を贈呈する番外プログララムで感動のフィナーレ

かくしてプログラムは順次進行し、閉会の挨拶は理事上代たの先生の名前が記載されていたのであ



小林八王子後援会長より大浜理事長へ目録贈呈

るが、昨今健康すくねず、どうしても外出することが難しいということで、祝電を寄せられた。飯田専務理事が祝賀の電文を読み上げ、上代先生がセミナー・ハウスの構想が全く幻に過ぎなかった七年前から、非常な熱意をもって推進された陰の力について感動のうちに述べ閉会の挨拶とされた。

これでプログラムの全てを終ったのであったが、プログラムに記載されていない番外の提案がなされた。企画委員会を代表して、東京女子大学教授白井常先生が提案の説明に登壇された。大学セミナー・ハウスの構想を実現に至らした功労者に対してどうしてもこの機会に感謝を表明したいということが企画委員会においてとり上げら

●施設参観

なにかを考えさせる建築に参観者達の感想はさまざま理念を生かした斬新な設計地形を利用した巧妙な設計

一八、〇〇〇坪の敷地に、棟数にして一二棟の建物が自然の地形を巧みに利用して点在している。学校でなし、病院でなし、寄宿舎でなし、勿論工場でもない。余り

祝賀パーティ



にも不思議な形の建物が多いのでこの施設が何をしようとするところか理解に苦しむようである。今日の落成式に参列された来賓の方々も実際に足を運んで、一つ一つの建物を覗き、快適な宿舎、清楚なセミナー室、宿舎の急坂な道路、デラックスマンサ、各所に植えられた日本花の苗木、八王子市民の寄贈になる庭園などを順次に参観され、どうやらここが逆ピラミッド型の殿堂となっている本館を中心にして、教授と学生が起居を共にしながら学問を通じて人間形成のための教育を行なう施設であることを了解されたようである。そして国公立大学が共同に利用できるこうした施設こそ、最も現代の日本の大学教育に必要であることに痛感されたようである。

長連も若い先生方もお互いに久淵を叙するなどなごやかな風景である。一方では茅館長夫人、山内東大名誉教授夫人、松田智雄東大教授夫人のお顔も見え、にぎやかな話題を交わしている。佐藤三井銀行会長、大浜早大総長、茅館長の顔にも喜びが満ちている。そうした中で国立音大合唱団のコーラスが一段と祝賀気分にかりたててくれた。なごりは尽きないが五時近くから、帰途につく方もみられ、五時半、多くの余情を会場に残して、祝宴は全て終了した。

主なる来賓芳名(敬称略)

- 元東京大学総長 南原 繁
- 日本学士院会員 市河 三喜
- 同 石原 謙
- 同 齋藤 勇
- 同 石館 守三
- 増田 四郎
- 岡田 正弘
- 木村健二郎
- 藤田 たき
- 有山 登
- 山田良之助
- 福島 秀策
- 篠田 糺
- 松平 正寿
- 児玉 九十
- 関口 勲
- 三浦 幸平
- 三雲 次郎
- 高千穂科科大学学長 大野 璋五
- 千葉工業大学学長 堀口 貞雄
- 大同工業大学学長 綿織 清治
- 国立音楽大学理事長 中館 耕蔵
- 東京音楽大学理事長 野本 良平
- 奥州大学理事 中岡 勝人
- 東京教育大学農学部部長 内藤 利貞
- 一橋大学社会学部部長 坂田 太郎
- 早稲田大学政経学部部長 小松 芳喬
- 日本大学商学部部長 小田切松義
- 法政大学文学部部長 岡本 成暉
- お茶の水女子大理学部部長 内海誓一郎
- 日本女子大文学部部長 中島 斌雄
- 立教大学理学部部長 山本 進
- 日本大学芸術学部部長 渡辺 俊平
- 東京大学医学部部長 吉川 春寿
- 東京大学図書部長 伊藤四十二
- 東京大学名誉教授 山内 恭彦
- 同 木内 政蔵
- 同 手塚 富雄
- 佐々木重雄
- 久雄
- 智雄
- 酒造雄
- 重嶺
- 恭子
- 貞彦
- 豊水
- 資長
- 博
- 東京教育大学教授 江尻 容
- 東京農工大学教授 大野 泰雄
- 東京教育大学教授 岡田 謙
- 日本大学教授 小川 元
- 明治大学教授 片岡 正治
- 日本大学教授 木村 禎司
- 早稲田大学教授 佐島 秀夫
- 同 佐藤 立夫
- 青山学院大学教授 佐藤 信
- 東京教育大学教授 坂柳 義巳
- 東京女子大学教授 白井 常
- 日本大学教授 塩谷 明雄
- お茶の水女子大教授 林 太郎
- 東邦大学教授 三堀 三郎
- 東京女子体育大副学長 森 梯次郎
- 法政大学教授 門司 三省
- お茶の水女子大学教授 柳田 為正
- 日本大学教授 吉田 隆
- 文部省大学学術局学生課長 笠木 三郎
- 国際文化会館理事 豊田 治助
- 河上記念財団常務 増山清太郎
- アメリカ・フレンズ・センター 三保 文江
- 主事 岡本二三雄
- 東京レヨン常務 服部 梅治
- 清水建設専務 城戸七太郎
- 日立製作所総務部長 岩松 茂輔
- ライオン歯磨社長 小林富次郎
- 安立電気社長 磯 英治
- 佐々木硝石専務 血脇 芳雄
- 日本ビクター総務部長 吉井佐三男
- 日本電機工業会理事 佐藤 一敏

歓喜に溢れた祝賀パーティ
南原元東大総長の発声で
大学セミナー・ハウスの
万歳を唱和

本館食堂は祝宴会場に変わり、豪華というには余りに簡素であるが、すばらしい盛況である。学界の大長老南原繁先生がお元気なお顔をお見せいただいたので同先生にまず乾杯の音頭取りをお願いし、一同声も高く万歳を唱和して祝宴に入った。

市河三喜、石原謙、斎藤勇といった御高齢の先生方も各大学の学

大学セミナー・ハウス 落成式の日際して



理事・前日本女子大学長

上代 たの

およそ一つのことが成し遂げられるためには数えきれない有形無形の力の結集が必要であることはいうまでもないが、われらの大学セミナー・ハウスに寄せられた官界、財界、学界、その他多種多様の方面からの善意に溢れた協力は全く圧倒的に大きいものであった。

落成式の当日、南原、市河両博士のような日本の大学の先輩、佐藤両氏、また地域的にも関西、東北など遠方からわざわざ多くの大学学長、教授等を迎え得たこと、そして現代日本の代表的なお三人の方々から真心のこもった祝詞をいただいたことだけをみて、全く「ただごと」と考えることが出来ない。参加者が四〇〇名に近かったこと、そしてその方々が、これまで、心からハウス建設のために力強い支援の手をさし続けてくださったばかりでなく、将来に大きな期待をかけてこの落成を祝い、今後を見守ってくださいる人々であることをおもうと、ただ

後の日本の大学教育の上に及ぼすのである。

私は海外にも大学間に種々有益な協力態勢がとられていることを知っている。そしてそれ等のあるものは、今後、日本においても適当な形式と方法とによって実施されるべきがのぞましいと思っている。しかし、この大学セミナー・ハウスのような構想と施設は、世界何れの国にもまだ試みられておられない全くユニークな試みである。われわれは今後このユニークなプログラムを真にユニークな価値あるものとして機能させるよう、今日の落成式において正式な第一歩を踏み出したのである。明日から始まる落成記念セミナーについて、七月五日の開館記念セミナー指導者にめぐまれて開講できることは、支援者、協力者のみなさまの愛情と善意に十分報い得ることを確信する。

今後、この丘の上でどのような新しい生命の芽がはぐくみ育てられることであろうか。どのような奇跡的そして偉大な仕事をなし得る力の基礎が築かれることであろうか。大いなる精神のめざめと躍動がここに生まれ有形無形に新しい日本を「change」し、またひいては人類の幸福と繁栄のために直接間接に貢献しうる人をこの丘の上から社会に送りだすことが出来るであろうか。私の夢は限りなく大きくひろがって行く。

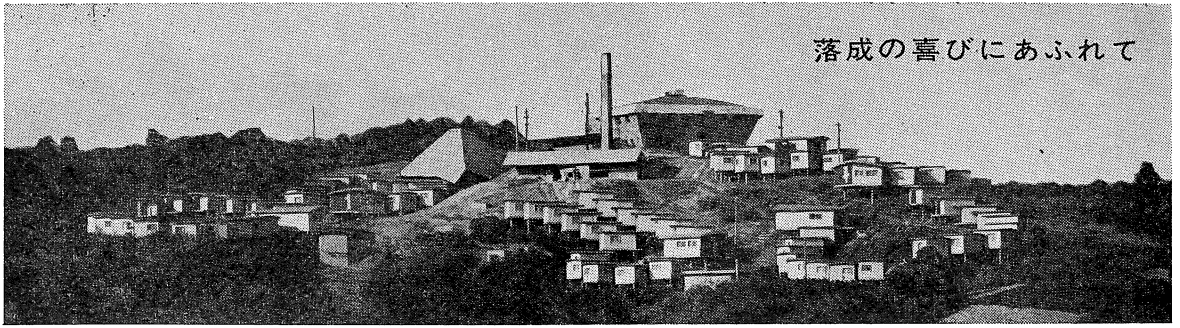
このハウスはただ丘の上に建てられた単なるハウスでないことを忘れてはならない。長い年月にわたり、夜も昼も、曜日も忘れて働き続けた一人の人の「passion」と献身的な努力が中心となり、その中心に多くの人の共鳴と理解と協力と支援が一つに結晶して出来たものである。飯田専務理事は長年日本の大学教育に関係し、その根本的改革の必要を痛感し、その核心について大いなるvisionをいただき、その実現のためには生命をかけて働く決意をされた人である。そして「死ぬことを忘れる」ほどのその決意を語られたのが、顧みれば一九五九年一月一八日であった。私はこの刹那の感激を忘れることが出来ない。打てば響く共鳴というよりは飯田氏の心と一つにとけた感じともいうか、それから間もなく東大の茅先生に、次いで早稲田の大浜先生に飯田氏の構想がこれまた打てば響くまことにはつらつとした共鳴が得られたのである。ついにその年の一月二五日に、東大、一橋、教育大、早、慶などから一〇名の先生方が集られ、その構想を支持された。京王電鉄社長の厚意によってこのすばらしい丘の上に土地が選定され、佐藤後援会長の超人的なお骨折の結果、前に申し述べたようにあらゆる方面からの協力と支援をえてここに大学セミナー・ハウスが落成したのである。

日本の大学の正しい発展を念

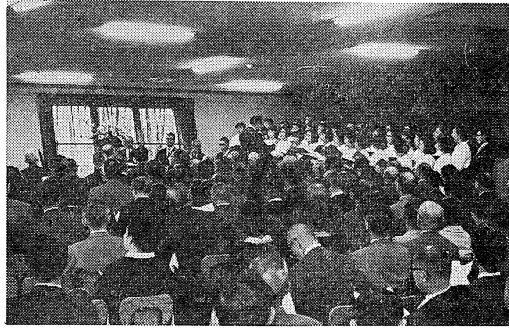
じ、次代の日本を築く若い人々を熱愛する上記の飯田氏の真心から生まれた構想がみごとに成就し、いよいよ今日発足するのである。私は氏の今後の活動に満腔の祝福をささげずにはおられない。

(二頁より)

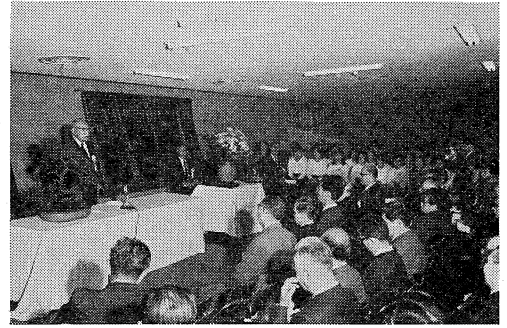
れ、その具体的な方法は記念樹をこの構内に植え、それを贈呈しようということに決まり、建設後援会の中心として三億円募金運動を推進された、三井銀行会長佐藤喜一郎氏に株もの大椿を贈呈し、本館のブリッジから出た丘の上に植えた。大学セミナー・ハウスの構想を育てた最大の保護者は上代たの・大浜信泉・茅誠司の三先生である。この三先生の人間的な交わりが、三位一体となって、飯田宗一郎氏の夢を愛護し、鞭撻し、前進せしめた。恐らくこのうちの一人が欠けても、大学セミナー・ハウスは具体化しなかつたかも知れない。本館前の広場の角に植えられたヒマラヤ杉三本が、三先生に贈呈された記念樹である。なぜ三本なのか。いずれは歴史的説明が必要になるであろう。その頃はすばらしい大木となつて、丘陵に美しい風景を添えるに違いない。以上ですべてのプログラムを終了し、飯田専務理事が閉会を告げ、向いの丘の上から流れ出た都立八王子工業高校生のブラスバンドの爽快な音楽を合図に来賓はブリッジを渡り、施設の参観に向つた。



落成の喜びにあふれて



五〇名の国立音楽大学合唱団



祝辞を述べる経団連会長石坂泰三氏



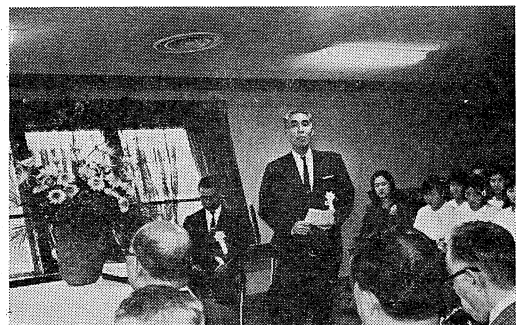
乾杯する主役達
佐藤三井銀行会長・南原元東大
総長・大浜理事長・茅館長・飯
田専務理事



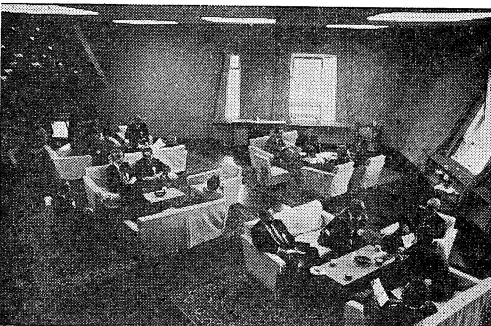
記念贈呈の辞を述べる
東京女子大学白井常教授



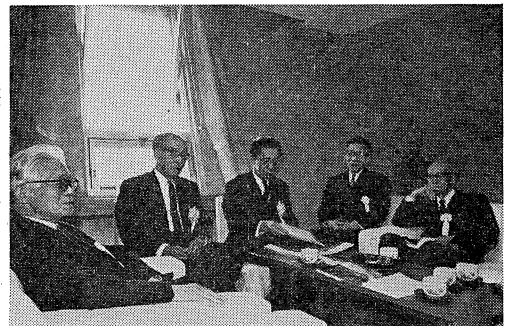
祝賀パーティーのご夫人達



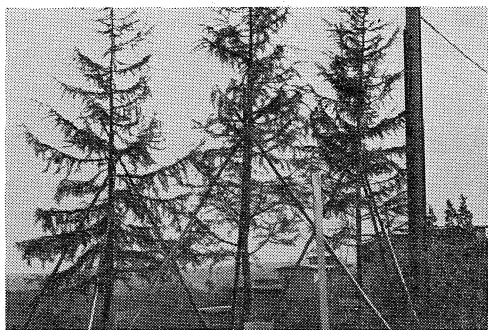
司会をする飯田専務理事



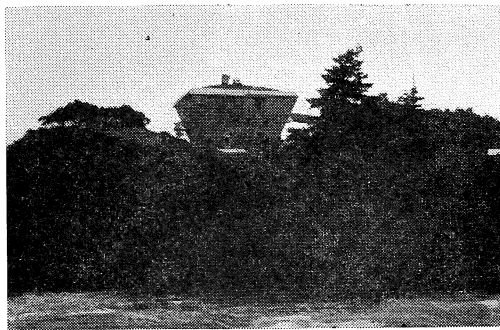
ラウンジの来賓



長老と現役学長（館長応接室）
南原元東大総長・大浜早大総
長・大河内東大総長・増田一橋
大学長・市河三喜博士



茅・大浜・上代三先生に贈られた記念樹



北側より本館を望む



遠く連峰を眺める来賓達
石坂泰三氏・笠信太郎氏ら



記念樹の傍に立つ佐藤三井銀行会長



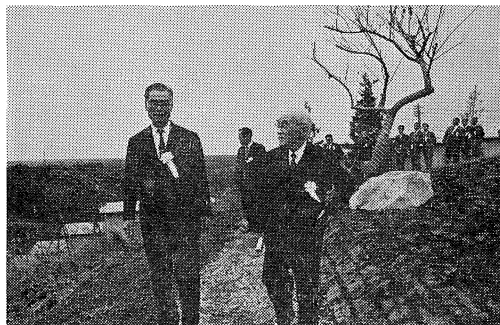
第二群の内庭池泉付近



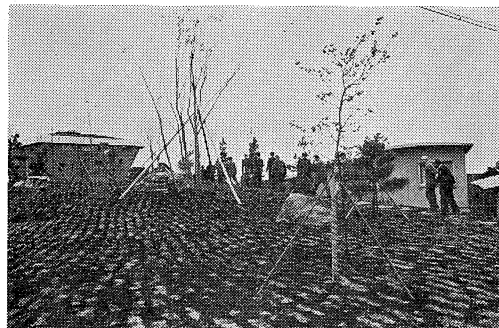
大浜理事長の説明を聞く
南原元東大総長
(サーピス・センター前)



来賓を誘導する都立八王子工高生のプラスバンド



斎藤勇博士と茅館長
(中央庭園)



八王子市寄贈の中央庭園



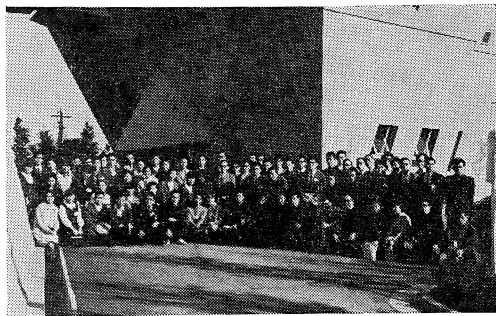
大塚久雄先生とご家族
(本館前にて)

落成を記念して本格的な国公立 私立大学共同セミナーを開く

大学教育に新しい方向を示す

主題 現代思潮と日本

近代人—それは自分をコントロールしながら全体に奉仕できる人間である
近代化—それは市民化された社会、暗い社会から明るい社会へ移ることである



高島教授を中心に記念セミナーの学生達

落成を記念し、開館記念セミナーにつづいて第二回の大学共同セミナーを開催した。今回は建築が竣工したので、建物の使用が格段と便宜になり、内部の設備も整え、放送設備が出来上り、各セミナー室に電話が架設されたので、連絡はよくとれるし、セミナーは順調に運営された。もうどのようなセミナーでも引き上げられるだ

けの自信がもてた。

このセミナーは別記の如くわが国における極めて著名な二人の社会科学者を迎えて開催された。参加学生は学者としての重量感と学問における迫力とによって、三日間興奮と緊張の連続であった。奥様と泊込みの大塚久雄先生は夜も先生を囲む会を持たれ、おそくまで質問応答の懇談をされたり、翌日はシンポジウムを催されたり、全館の隅々まで学者としての大塚先生の香り高い人間性とウェバール学説が浸透した感じであった。

第二日目の午後は高島先生が引きうけ、これまた泊り込みで、全体講義、シンポジウム、そして会食のスピーチといった具合にすっかり学生の中にとけこんでしまわれ、学生達は文字通り本格的なセミナーを味わい、一方では日本の近代化と市民社会について教えられ、おぼろげながら日本の未来像をつかむ指針を得たであろう。

なお今回のセミナーはセクシオン指導の若手教授達が学生と一体となり白熱した討議を展開され、

実に夜の二時、三時に及んだセクシオンもあつた程である。人と学問とがよく調和し、名実共にすばらしいセミナーであった。

大塚、高島両教授の全体講義は近くセミナー・ハウス論集第一号をもつて発刊する予定である。

参加学生は七九名(うち女子二四名)。大学別の内訳は次の通りである。

- 早大(二三) 東大(一二) 東京女子大(二〇) 日本女子大(九)
- 慶応(八) 都立大(三) 教育大(三)
- 武蔵工大(三) 一橋(二)
- 津田塾(二) 東工大(一) 法政(一)
- 成蹊(一)

参加学生の反響を見る

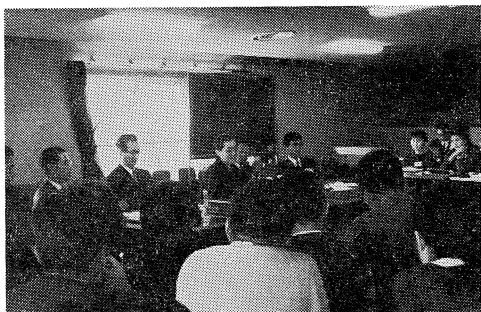
(一) 一言にいつて教育的効果の非常に大きな生活ができたと思えます。郵送していただいたセミナー・ハウスの外観を見まして、だいたいの予想はできましたが、地形的にみて、勉強・研究するためには最適の地にあるのではないかと思います。中央セミナー館、大小のセミナー室、ユニットハウスにしろ、研究、討議をスムーズに運ばせるようにできています。食堂もセルフ・サービスで合理的であり、食事も大変おいしくい

ただけました。僕は起床時間に間に合わなかったが、それは前日の討議が白熱化し、深夜にまでつづいたからと思えます。しかし時間のワクを超えてでもやれるところがセミナー・ハウスらしいような気がします。第二日目の朝は早く散歩をしました。

学問をする上でこれほど充実した時を過ごせたことは今までになかったと思えます。各大学の学生が一同に会し、自分の大学で学んで来たものをぶつつけ合う場、それがセミナー・ハウスの本質であると思えます。他の大学の学生と討議し合うことができることは実にすばらしいことです。自分の勉強不足を見せつけられ、厳しく自己と対決することができました。

(九頁五段へ)

大塚久雄教授シンポジウム、安藤・内田・住谷各教授と共に



落成記念セミナー

昭和四〇年一月二、四日

主題 現代思潮と日本

(全体講義)

「ウェバール社会学における思想と経済」

「近代化の思想と論理」

——とくに新しい人間像の形成のために——

セクシオン別指導者

A 成蹊大学教授 安藤 英治氏

B 神奈川大学教授 内田 芳明氏

C 立教大学教授 住谷 一彦氏

D 一橋大学教授 鈴木 秀男氏

E 一橋大学博士課程 富沢 賢治氏

F 一橋大学博士課程 星野 彰男氏

運営委員長 慶応大学教授 村井 実氏

委員 早稲田大学教授 川原 栄峰氏

委員 早稲田大学教授 山岡喜久男氏

委員 東京女子大学教授 白井 常氏

東京大学教授 大塚 久雄氏

一橋大学教授 高島 善哉氏

◆個人寄付申込者 (第三回報告)

(昭和四〇年四月〜六月 申込順)

小原 啓義殿	早稲田大学助教	藤本 淳雄殿	東京大学助教	山口 隆二殿	一橋大学助教	坂口 謹一郎殿	東京大学名誉教授
山口 彦之殿	東京大学助教	小野 忍殿	東京大学助教	那須 皓殿	東京大学名誉教授	水田 米殿	日本女子大学助教
山田 雄三殿	一橋大学教授	木原 博殿	東京大学教授	三浦 章殿	田辺化工機監査役	松村信治郎殿	松村石油研究所社 長(神戸)
吉武 泰水殿	東京大学教授	小林 英司殿	東京大学助教	染谷恭次郎殿	早稲田大学教授	戸田 盛和殿	東京教育大学助教
高木 佐知夫殿	東京大学教授	国分 正胤殿	東京大学教授	橋爪 由也殿	大船渡商工会議所 会頭	馬淵 和夫殿	東京教育大学助教
鈴木 成文殿	東京大学助教	伊藤 糾次殿	早稲田大学教授	関島 久雄殿	成蹊大学教授	唄 孝一殿	東京都立大学教授
一丸 節夫殿	東京大学助教	佐々木泰三殿	東京大学助教	石原 謙殿	日本学士院会員	山村 昌殿	東京大学教授
吉田 正巳殿	東京大学助教	黒田 善雄殿	東京大学助教	渡辺 武男殿	東京大学教授	大島 康正殿	東京教育大学助教
市河 三喜殿	東京大学名誉教授	八十島義之助殿	東京大学教授	川又 昇殿	早稲田大学教授	尾島 碩心殿	東京教育大学助教
中川 一朗殿	東京大学助教	原 安三郎殿	日本化学社長	外池 正治殿	一橋大学助教	堀 高夫殿	東京教育大学助教
植松 正殿	一橋大学教授	水谷 三郎殿	実教出版専務	中尾 清秋殿	早稲田大学助教	中村 正久殿	東京工業大学助教
藤崎 博也殿	東京大学助教	護 雅夫殿	東京大学助教	野田 良之殿	東京大学教授	金子 光殿	東京大学助教
吉川 春寿殿	東京大学教授	中野 準三殿	東京大学助教	井上究一郎殿	東京大学教授	岡田 正弘殿	東京医科大学 学長
下郡山正巳殿	東京大学教授	三浦 忠夫殿	日本建築セクタ 専務	池原止戈夫殿	東京電機大学教授	岡田 正弘殿	東京医科大学 学長
寛 太郎殿	早稲田大学教授	松本 正一殿	弁護士(大阪)	庄司 英信殿	東京農業大学講師	中島 文雄殿	東京大学教授
本田 安次殿	早稲田大学教授	青木 茂男殿	早稲田大学教授	前田 陽一殿	東京大学教授	東 季彦殿	日本大学理事
宮部 宏殿	早稲田大学教授	原 佑殿	東京大学教授	神立 誠殿	東京大学教授	清水多嘉示殿	日本芸術院会員
小野 英二殿	早稲田大学教授	坂田 太郎殿	一橋大学教授	猪瀬 博殿	東京大学教授	岡田 啓基殿	無職(東京)
葛城 照三殿	早稲田大学教授	時枝 誠記殿	早稲田大学教授	五十嵐新次郎殿	早稲田大学教授	吉田 要殿	旭工務所代表取締役 (東京)
房村 信雄殿	早稲田大学教授	本間 仁殿	東京大学教授	湯浅 明殿	東京大学教授	加藤 一郎殿	東京大学教授
戸近 義次殿	東京大学教授	前田 護郎殿	東京大学教授	村松林太郎殿	早稲田大学教授	三島 良績殿	東京大学教授
舟橋 三郎殿	東京大学教授	鈴木 忠義殿	東京大学助教	山田 秀雄殿	一橋大学教授	今堀 和友殿	東京大学教授
三宅 仁殿	東京大学教授	前野 直彬殿	東京大学助教	関根 正雄殿	東京教育大学教授	森村太華生殿	森村商事常務(東 京)
関 義長殿	三菱電機会長	松井 達夫殿	早稲田大学教授	神内権重郎殿	神内電機製作所社 長(大阪)	大村 雄治殿	早稲田大学教授
岩倉 義男殿	東京工業大学教授	岩井 浩一殿	東京大学助教	伊藤四十二殿	東京大学教授	速水 国彦殿	日本精蠟常務
芦沢 正見殿	東京大学助教	金子 幸彦殿	一橋大学教授	武藤 聡雄殿	東京教育大学教授	佐島 秀夫殿	早稲田大学教授
山川喜久男殿	一橋大学教授	佐藤 一雄殿	東京工業大学教授	池本 義夫殿	実践女子大学教授	伊藤 隆吉殿	成蹊大学教授
井上 宇市殿	早稲田大学教授	影森 明殿	東京工業大学事務 局長	和田 義信殿	東京教育大学教授	三島 二郎殿	早稲田大学教授
富木 謙治殿	早稲田大学教授	松本鉄治郎殿	松本産業会長(東 京)	松井 勇殿	お茶の水女子大学 教授	小林 正之殿	早稲田大学教授
内田 秀雄殿	東京大学教授	松本鉄治郎殿	松本産業会長(東 京)	前田 鷹衛殿	東京教育大学教授	島内 武彦殿	東京大学教授
宮本 正尊殿	東京大学名誉教授	松本鉄治郎殿	松本産業会長(東 京)	石村幸四郎殿	成蹊大学教授		
河村 秀平殿	早稲田大学教授	松本鉄治郎殿	松本産業会長(東 京)	岩田 和夫殿	東京大学教授		

◆構内美化のために
木を植えましよう

河合良成氏を会長とする日本花の会から寄贈された桜、梅、桃の苗木三〇〇本は宿舎、セミナー室付近、それから丘陵斜面にと植えられたから、やがては花の名所となるであろう。

東京教育大学から寄贈された白樺苗木一〇〇本は本館西側の丘陵斜面に植えられ、ゆくゆくは武蔵野の雑木林と美を競うであろう。

美化運動の最大の協力者は前述のとおり八王子市後援会で、その寄贈になる中央庭園と第二群の中庭(池泉)は本格的庭園である。

また第一群の中庭に小さな花壇があるが、これは東京女子大学生数名の善意によってつくられたもので、春には美しい花が咲き、構内の小点景となるであろう。

その他美化運動に協力され、植樹代を寄付下さったゼミは次のとおりである。

- 早大市川教授ゼミ・日大夏季研究会・日大夏季法職研究会・東京都立大半谷教授ゼミ・基督教友会日本年會修養會・慶大高村教授ゼミ・東京女子大藤永教授ゼミ・明治学院大グリーンクラブ・落成記念ゼミナール参加学生・成蹊大文学部・日大岩井教授ゼミ・青山学院高等部修養會・早大碧稲會・日大マンドリンクラブ・横浜市立図書館職員・上智大鈴木不皇教授ゼミ
- 合計 六七、六八一円

工藤 恵栄殿	東京教育大学助教	藤井 益殿	日本大学助教	辻 直四郎殿	慶応義塾大学教授	大野 泰雄殿	東京農工大学教授
井上 英二殿	東京大学教授	池森 亀鶴殿	日本大学教授	雲嶋 良雄殿	一橋大学教授	佐藤 晃一殿	東京大学教授
山下 笹市殿	香川相互銀行社長 (高松)	浜口 隆一殿	建築評論家	高橋吉之助殿	慶応義塾大学教授	奥沢篤次郎殿	法政大学教授
今野源八郎殿	東京大学教授	阪本 泉殿	日本大学教授	斎藤 実洲殿	東京教育大学助教	久保田キヌ殿	立教大学助教
山崎健太郎殿	会社役員(東京)	笠原 正成殿	日本大学教授	久松 潜一殿	東京大学名誉教授	武沢 信一殿	立教大学教授
植田利喜造殿	東京教育大学助教	中山 知雄殿	日本大学助教	野田 福雄殿	東京学芸大学助教	土川 広一殿	本多記念会事務局 長
松元 文子殿	お茶の水女子大学 教授	川西 健次殿	東京女子大学学長	吉田 修三殿	日本電信電話公社	力石 定一殿	法政大学助教
藤田 たき殿	津田塾大学学長	木村健二郎殿	日本大学教授	萩原 龍夫殿	東京学芸大学助教	逸見 謙三殿	東京大学助教
小林 昇殿	早稲田大学教授	塩谷 明雄殿	日本大学教授	井原 恵治殿	東京教育大学助教	福田 清人殿	立教大学教授
山田 邦夫殿	信濃美術館館長 (長野)	大橋吉之輔殿	慶応義塾大学教授	藤田 純一殿	東京大学助教	大畠 清殿	東京大学教授
安井 信之殿	ブラザー工業取締 役(名古屋)	佐々木重雄殿	東京工業大学名誉 教授	藤田 三輪	東京教育大学教授	有井 琢磨殿	東京学芸大学助教
矢彦沢秀司殿	日本蒸溜工業常務 (市川)	鈴木 勝殿	日本大学教授	河村 良吉殿	電気通信大学教授	中村 顕一殿	法政大学教授
岩片 秀雄殿	早稲田大学教授	江口 庸雄殿	日本大学教授	石館 達二殿	早稲田大学教授	安芸 皎一殿	日本大学教授
南川 利雄殿	日本大学教授	古屋野宏平殿	無職(長崎)	石館 達二殿	早稲田大学教授	篠崎 平馬殿	山形大学学長
森田 重郎殿	西武化学工業代表 取締役	西川 瀨八殿	日本大学教授	藤井 晴一殿	慶応義塾大学教授	榎田 知己殿	慶応義塾大学助教
岡 俊平殿	東京工業高等専門 学校校長	森脇 襄治殿	青山学院大学教授	小出昭一郎殿	東京大学助教	草谷 晴夫殿	立教大学助教
小川潤次郎殿	日本大学教授	石井正之助殿	東京学芸大学教授	安藤 公平殿	日本大学教授	小峰 王親殿	法政大学教授
木村 禎司殿	日本大学教授	尾島 信夫殿	慶応義塾大学客員 教授	小高 泰雄殿	慶応義塾大学教授	岩淵 寿津殿	日本女子大学講師
坂柳 義巳殿	日本大学教授	菅野 次郎殿	日本大学教授	入江勇起男殿	東京教育大学教授	田中 穰二殿	法政大学助教
木下 秀明殿	日本大学教授	児玉 九十殿	明星大学学長	西巻 正郎殿	東京工業大学教授	中島 力殿	立教大学助教
日比野恒次殿	電通社長	石井 正博殿	電気通信大学助教	赤 撰也殿	東京教育大学教授	寄付申込額内訳	
高木友三郎殿	流通経済大学教授	野本 良平殿	日本大学教授	末延 三次殿	東京大学名誉教授	一〇〇,〇〇〇円	一名
村上 喜一殿	日本大学教授	酒井彦四郎殿	日本大学教授	坪井 善勝殿	東京大学教授	五〇,〇〇〇円	一名
登川 直樹殿	日本大学教授	小川 元殿	日本大学教授	安藤 一郎殿	東京外国語大学教 授	一五,〇〇〇円	一名
江尻 容殿	東京教育大学教授	梅沢 純夫殿	慶応義塾大学教授	森戸 太郎殿	法政大学教授	一〇,〇〇〇円	一名
田原 保二殿	日本構造橋梁研究 所専務	相沢 憲殿	日本大学教授	平野鉄太郎殿	法政大学助教	六,〇〇〇円	一名
吉田 隆殿	日本大学教授	古館喜代治殿	日本大学教授	辻本 芳郎殿	東京学芸大学教授	五,〇〇〇円	一名
		番場嘉一郎殿	一橋大学教授	門司 三省殿	法政大学教授	三,〇〇〇円	一名
		阿武喜美子殿	お茶の水女子大学 教授	伊藤 明子殿	日本女子大学助手	二,〇〇〇円	一名
		真島 正市殿	東京理科大学学長	望月周三郎殿	慶応義塾大学名誉 教授	一,〇〇〇円	一名
		武井 健三殿	電気通信大学教授	竹原 重松殿	神奈川大学参事	八〇八,〇〇〇円	二三四名
		永沢 滋殿	日本大学教授	田村 善藏殿	東京大学教授	累計	
						二、四三四、〇〇〇円	五三二名

(七頁より)

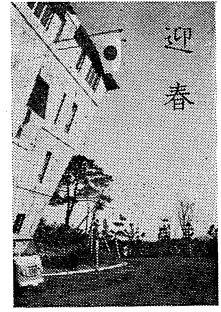
しかしそれ以上に大きな収穫は、大塚先生や高島先生のような学界の最高水準をいく先生方とふれることが出来たことです。僕は自分の大学の中にとじこもっていたのでは、恐らく一度も接する機会が持てなかったでしょう。先生の講義を拝聴している間、先生方の造詣の深い学識にふれ、何かに響き、心をふるえさせるようなものを感じました。(草大 小松 洋)

(二)

セクシヨン編成は適当な人数で面白い話し合いが出来た。テーマは自分にとって最も興味があり、また現実の問題であったので非常に勉強になった。皆の意見もきかれ、自分の考えがまとはずれでなかったことに安心した。同じ問題を真剣に考える友達にかまれ、啓発されると共に力強く感じた。経費の点では、このような安い費用で、これだけの設備を利用し、これだけ深い話し合いができたことは信じられぬほどである。(津田塾大学 吉村 和志)

(三)

最も意義深かったのは、大塚、高島両先生の講義とシンポジウムでした。直接お話をうかがい、質問にも答え下さることは、書物では学び得ないものを吸収することができると思っています。学問というもののきびしさを、学問する態度など多くのことを学ぶことができました。(東京女子大学 梅畑 勝美)



迎春

利用状況

一〇月

明治学院大学教授 齋藤 茂夫氏
 明治学院大学グリーンクラブ 池宮 英才氏
 法政大学教授 高橋 誠氏
 日本女子大学教授 青山 吉信氏
 立教大学教授 肥前 栄一氏
 東京女子大学教授 白井 常氏
 成蹊大学教授 伊藤 隆吉氏
 東京大学助教授 杉山 好氏
 明治学院大学教授 岡安 信男氏
 成蹊大学教授 広野 良吉氏
 東京都立大学教授 沼田稲次郎氏
 早稲田大学教授 山岡喜久男氏
 東京農工大学教授 高島 藤順氏
 東京都立大学教授 伊丹 潔氏
 青山学院大学教授 森脇 襄治氏
 立教大学教授 安藤 瑞夫氏
 青山学院大学教授 栗山益太郎氏
 東京女子大学 佐藤 宏子氏
 東京都立大学教授 安平 哲治氏
 東京大学教授 大田 堯氏
 慶応義塾大学教授 津田 利治氏
 日本大学教授 馬場 明男氏

十一月

東京都立大学教授 山本 光男氏
 東京都立大学教授 関 嘉彦氏
 東京都立大学教授 矢野 茂樹氏
 東京都立大学教授 安岡 善則氏
 日本女子大学教授 一番ヶ瀬康子氏
 早稲田大学教授 市川 孝正氏
 日本大学教授 岩井 肇氏
 中央大学教授 小川浩八郎氏
 慶応義塾大学教授 関本 昌秀氏
 東京教育大学助手 小川 捷之氏
 横浜国立大学教授 成田 頼明氏
 慶応義塾大学教授 村井 実氏
 慶応義塾大学教授 内山 正熊氏
 東京神学大学全学集会学長 桑田 秀延氏
 早稲田大学 川原 栄峰氏
 神奈川大学 小高 泰雄氏
 明治大学・日本女子大学合同セミナー 祖父江孝男氏
 芝浦工業大学教授 川島 甲士氏
 東京女子大学教授 小河原正巳氏
 立教大学教授 佐藤誠三郎氏
 早稲田大学教授 岩本 一美氏
 日本大学教授 岩井 肇氏
 中央大学教授 藤村 通氏
 お茶の水女子大学教授 林 太郎氏
 法政大学教授 山内 一男氏
 東京女子大学教授 井上 ヒデ氏
 慶応義塾大学教授 小竹 豊治氏
 中央大学教授 富岡 幸雄氏
 一一月 鶴藤 丞氏
 東京都立大学助教授 鶴藤 丞氏

寄贈図書

大河内一男殿——私の人間像・貧乏物語・これからの労働組合・私の経済成長論・統社会思想史・齋藤勇殿——英国宗教詩鑑賞・英詩概論・文学としての聖書・詩文選・英文学史概説・文学の世界・アメリカ文学史・イギリス文学史・高村象平殿——五年のあしあと・佐藤喜一郎殿——折にふれて上下各二冊
 永井道雄殿——日本の大学・教師・大学の庭上、下
 小堀巖殿——死海
 杉山好殿——キルケゴール著作集第一七巻・幸福論Ⅲ・シユヅァイツァー著作集第一二、四巻
 山崎典殿——観光事業の底辺
 笠原正成殿——社会福祉要論・老人社会学
 東京大学出版会殿——私の人間像

ゲストルーム宿泊者

一〇月

刀根薫氏。川喜田二郎氏。関本昌秀氏。武山泰雄氏。鈴木皇氏。

十一月

大塚久雄氏夫妻。高島善哉氏。茅誠司氏。桑田秀延氏。福田正俊氏。岡部関三氏。林太郎氏。東照敏氏。岩井肇氏。木田猷一氏。倉長久氏。小竹豊治氏。刀根薫氏。

編集後記

業の財務管理・キャッシュフローの会計・在庫管理の諸方法・開放体制下の企業経営・技術革新と労働組合・変貌する中小企業・雇用・賃金・労使関係・日本経済と生産性・生産性測定のでびき・適正利益計算基準・工学的生産管理・労使協議制・ORのすすめ・新しい社会と人間像・管理原価会計・インダストリアルマーケティング・意思決定と利潤計算・経営の過程(1)。(2)・IEの入門、IEセミナー1・IEの実際、IEセミナー2・IEの活用、IEセミナー3・交替制の研究・アメリカの賃金決定

落成記念号を編集する私の喜びは大きい。第四号はあの日のご感激を記録に残す覚書である。今にして思うことは、私と上代先生との出会いが、セミナー・ハウスのためにかくべからざる条件であったことである。私にとって人生読本の意味がある。落成式に寄せられた上代先生の喜びを永く記憶するため、その電文を書きとめておきたい。この大いなる喜びを与え共に喜んで下さる皆さまに深く感謝いたします
 上代 たの
 今日から私は死ぬことを忘れて働かねばならない。(飯田生)